



協会だより

Japan Tourism Facilities Association

No.77



7月

発行 / 社団法人国際観光施設協会
 総務委員会
 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋
 2-8-5 多幸ビル九段2階
 TEL03-3263-4844
 FAX03-3263-4845
 E-mail : kankou01@syd.odn.ne.jp
 URL : <http://www.kankou-fa.jp>
 2010年7月1日

生物多様性と観光

副会長 涌井史郎

協会の公益的社会活動の一つ「観光交流空間のまちづくり研究会」がこの6月、但馬の名湯「城崎」で開催された。

平安時代からおよそ1300年の歴史を持ち、大正14年の北但大地震の復興では、大谿川を骨格とし、和風を基調とした町並み景観や街路景観、外湯の発祥とでも評され、しつらえが町衆の意欲で実現した。まさに今日の景観まちづくりの嚆矢とでもいうべき温泉である。

温泉の街づくりばかりではなく、この城崎のある豊岡市は、これまた生物多様性により観光を戦略化させた点でも日本のモデルといえよう。

豊岡の中心部はそもそもが「円山川」が貫流する干陸地であり、豊かな河水の恵みと裏腹に、水害との戦いが常態化した土地であった。その河畔に多く生育したコリヤナギからは全国一の生産高を誇った柳行李が生産され、今でもその遺伝子が、この地を本拠地にしている旅行かばんの大手「エース」に生きている。

そうした土地柄故、この地には多くの水鳥が生息していた。その代表的な大型の鳥がコウノトリであった。この地域のコウノトリに対する愛情は実に深い。江戸時代以来、瑞鳥として禁猟され、地元では鶴として尊ばれてきた。田植えの時期が、コウノトリの子育ての時期であり、その時期こそコウノトリと地域の人々の間ではややせめぎ合いが起きるものの、やがて子育てが盛んな時期には「鶴見茶屋」なるものが開かれ多くの人々を呼んだ。また「鶴巢籠り見物夜行列車」なる日本最初のエコツアーかと思わせる観光列車が関西から運行されている。

特別天然記念物である野生のコウノトリが絶滅したのが1971年。原因は言うまでもなく農薬などにより採餌所条件の悪化であった。以来その復活が地域の悲願となった。採餌環境の整備等地域ぐるみの取り組みが続けられ、2005年見事に野生復帰の放鳥が行われた。

いまでは悠然とコウノトリが遊弋するこの地域。それをただ単に自己満足にとどめてはいない。卓越した市長のリーダーシップの下「地域環境経済戦略」を立案し、農業とコウノトリと観光が相乗効果を狙い、毎年10億円の増収を地域にもたらしている。

国連生物多様性年の今年10月、愛知・名古屋でCOP10/CBDが開催される。いわば地球に38億年をかけて作りだされた、エネルギーと物質の自律的循環のシステムとそこから生み出される生態系サービスがあってこそ人類の福利が存在する事実に向け、その生態系サービスの恒常化を図ろうとする会議である。簡単に言えば、それ如何により人類の存亡が問われるからである。

あの1992年のリオデジャネイロ・地球環境サミットの双子の条約の一つがこの生物多様性条約であり、しかも気候変動枠組条約に1年先駆けて締結されている。

UNEPでは観光業を重要な生物多様性に関わる産業として位置付けている。豊岡の事例を見れば明らかである。生物多様性の議論を、彼方の議論として意識するのではなく、観光に携わる我々に課せられた重要な課題の一つとして大いに認識する機会であろう。

平成22年度の通常総会と関連行事 報告

去る6月15日午後、ホテルメトロポリタン・エドモントにて平成22年度通常総会が開かれました。早朝に行われたサッカーワールドカップ南アフリカ大会で日本が初戦勝利した直後でもあり、お天気ともども晴れやかな総会となりました。総会議案は滞りなく承認されました。

会長挨拶要旨

会長就任一年が経過したが、この一年新しい風を起こしていこうと取り組んできた5つの課題も少しずつ進展し、協会の雰囲気も少し変わってきた。マネジメント会員と一体となって開催している観光交流空間のまちづくり研究会 温泉のまちづくりフォーラムの開催による地域の活性化 観光地評価の手法研究 インバウンド3000万人に対応して一番大事な利用客への安全な避難路図(言葉でなく絵で見てわかる)の普及促進 CO2-25%の問題に取り組むにあたって会員技術者からなるエコ達人村を結成し、成果が出るよう相談に応ずる。

これら5つの課題を会員の技術力によって日本を活性化すべく積極的に取り組んでいきたい。

ご来賓挨拶要旨

観光庁 観光産業課長 鈴木昭久氏より観光庁が取り組んでいる観光行政の3つの柱についてお話をいただいた。

外国人旅行者の増加。2013年1500万人、3年ごとに500万人ずつ増やしなるべく早期に3000万人(同じような島国のイギリスが受け入れている外客数)に持っていけるように邁進する。これまで海外への宣伝ロゴとして使用してきたYokoso Japanも、この4月より尽きることのない感動に出会える国、日本(Japan.Endless Discovery)に改め、海外の広い世代に人気のある「嵐」を観光ナビゲーターに投入し、日本への興味を高めるよう努めている。少子高齢化に加え最近の内向き志向では日本は成長せず、世界の元気を採り入れて発展していく以外に道はない。特にアジアの活力を大幅に引き入れ、外国人旅客の誘致受け入れに励む。

休暇取得の分散化。ゴールデンウィークと秋のシルバーウィークをブロック別に分散化する案について賛否もあるが丁寧に説明し、経済界だけでなく国民全体へ休暇分散の意義を訴えている。GW・お盆・年末年始に偏ったピーク時に縛られた経営では、施設運営面からも不合理、不経済な状態を強いられている。標準化によって観光が人生にとっていかに有意義であるかを理解されるよう一石を投じている。

多様で魅力的な観光資源の発掘・活用。観光施策について省庁間の連携強化を図り、具体的な成果に結び付くような各種助成の運用に努める。国土交通省でも、観光に関する社会資本整備や付帯する事業にも活用できる「社会資本整備総合交付金」を創設し、ハード・ソフト一体となった観光地域づくりを支援している。

議案

- 第1号議案 平成21年度事業報告
- 第2号議案 平成21年度収支決算報告
- 第3号議案 平成22年度事業計画
- 第4号議案 平成22年度収支予算
- 第5号議案 役員の一部選任

役員の変更 報告

第5号議案として理事内川正人氏、監事野村章次氏の退任に伴う役員の一部選任を行い原案通り承認されました。

- 理事 伊藤 肇氏(元三菱地所設計 副社長)
- 監事 春口和彦氏(オフィスカズ 代表取締役)
- 監事 福井 稔氏(福井A・Uシステム計画 代表)

通常総会関連行事 報告

関連行事の第1部として作曲家三枝成彰氏をお招きしセミナー「人を呼ぶまちづくり」が130名の参加を得て開催されました。涌井副会長との対談により進行され、2時間にわたってインテリジェンスに富んだ興味深いお話をいただきました。

第2部の情報交歓会では独立行政法人国際観光振興機構(日本政府観光局)間宮理事長のご挨拶、社団法人国際観光日本レストラン協会津田会長のご挨拶と乾杯のご発声により盛大に開催されました。

会議のため遅れてご臨席いただいた観光庁溝畑長官にご祝辞をいただきました。

新入会員13社が紹介され、162名の参加者のもと、森副会長の中締めで盛会のうちに無事終了しました。

野鳥の森ガーデン見学会 報告

さわやかな五月晴れの中、参加者15名は東京駅前を東武バスで9時30分出発、スカイツリー工事現場にチョイ寄り、その高さに思わず記念撮影、そして11時には群馬県館林の南、8万㎡の広大な敷地に到着。満開の芝桜のジュータンにうっとり、東武緑地さんのスタッフ大サービスの案内説明に納得、みんなで記念撮影そして超デカ弁当に舌つづみ、ぶんぶく茶釜で有名な茂林寺そして野鳥の森を散策、昼下がりの芝桜ガーデンの片隅でビールで乾杯、あまったつまみは隣で宴を催していたおばちゃん軍団にプレゼント、東京駅には定刻17時に到着解散、国際観光施設協会ならではのつかの間の幸福な一日でした。

歌舞伎座見学会 報告

5月13日皐月晴れのなか銀座・歌舞伎座の見学会が行なわれました。「私達は、お客様に夢を贈る仕事と考えますため、今回写真撮影はご勘弁願います。」と施主様からの一言から始まる。「客席・花道・舞台・役者控室・奈落・カフェスタンド・ショップ」どの場面を見ても一時停止している訳だが、様々な箇所から歌舞伎ファンの声が聞こえる雰囲気漂わせている。

先人達の知恵や技が融合し熱い思いが込められた建物には、その魂が宿り、昔と今を繋げる優しく包み込む空間がある。一つ一つのモノに伝統を織り交ぜ、かたち作られるものは見る者たちに語りかけてくれる。

♥編集後記♥

先日の総会において平成22年度の事業計画が承認されましたが、事業計画に示されている通り、今年度は新公益法人への移行についての準備が最終局面を迎えることとなります。

移行に必要な公益目的事業の拡充については、もともと協会の活動そのものが公益性の高いものであり、加えて今年度計画された事業が実施されれば、充分条件に見合うものと思われまます。公益事業実施に必要な財源の確保計画、定款の改定案作成を初めとする申請に必要な書類の作成など、まだまだ作業が山積みですが、しっかりと準備を進めてまいりたいと思います。

Y・K